

# 国際交流センター

## NEWSLETTER

Dec. 2017 Vol.49

### グローバル女性人材養成プログラム(中国)参加者の感想



8月18日(金)~9月17日(日)の31日間、中国南京大学にて中国語研修が行われました。研修参加者5名の感想をまとめました。

#### 中国研修に参加した目的は？

- \* 中国語の勉強、並びに現地の人々の暮らしや文化を体験し**日本とどのような違いがあるのかを知るため。**
- \* 一年生の時に中国語を履修しており、中国語に興味を持ったから。中国の遺跡などをみたかった。
- \* 中国語学力の向上と一ヶ月の親元を離れた生活、海外生活を体験するため。
- \* 中国語を一年間学習したが、奈良の商店街で耳にする中国人観光客の話す言葉は分からず、せっかく学習したのにもったいないと思い参加した。また、奈良の寺院と観光化の関係について調べたいと考えているので、中国語は必要なものなのでしっかり学習したいと参加した。
- \* 1回生の時に習った中国語を実践的に使用する事と、**発展が目覚ましい中国を肌で感じてみたかったため。**

#### Inside This Issue



グローバル女性人材養成プログラム(中国)参加者の感想



ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学とのプログラムを開催！



卒業修了留学生メールマガジン(Narakara MM)がスタート！



センター及び国際課の活動&センター来訪者



#### 南京大学海外教育学院での授業はどうでしたか？

- \* 総合の先生は、発音を直してくれたのでよかった。ピンインや単語の小テストも、最初のころよりできるようになり、上達がわかったのでうれしかった。口語の先生は二人おり、一人目の先生とは、中国語で雑談ができたことが印象に残っている。二人目の先生の授業では、最後に課題として課文の暗唱があったが、それのおかげで中国語が上達したのが実感できた。



上海見学にて

- \* **ほとんど全て中国語での授業のため、聞き続ける練習が多くできた。**先生の授業の進め方が実践を取り入れているために、知識を入力するだけでなく出力する機会を与えられていた。理解できていなければなんとかして伝えようとしてくれていた。扱っていた教材が日常を題材にしたもので、応用することができた。作文の課題が多くて大変ではあったが、中国語の文章を作ることに抵抗がなくなった。

\*比較的少人数での授業で質問や意思表示がしやすく指導が行き届いていたように感じた。すべて中国語での授業だったため初めの頃は大変だったが、中国語で中国語の説明をされることで語彙も増え、常に理解しようとしなければいけないというプレッシャーから集中力も身についた。わからなければ簡単な単語を使って言い換えたりジェスチャーを交えたりして丁寧に教えてもらった。

\*最初の授業で自己紹介をする事になり、自分の名前を名乗ったが聞き取ってもらえず、名前の発音を20分ほどかけて改正された。この事があったので、中国語を話すことが苦手になり、授業は身構えてしまったのだが、授業を受けていく内に中国語で話すことが嫌ではなくなり、勉強が楽しくなっていった。今年は途中で院生の方が先生を務めてくださり、年が近いこともあり比較的話しやすく、南京の大学生の生活事情などを知ることができて興味深かった。



## 文化体験はどうでしたか？

\*研修では、中国の文化体験を学べます。

\*太極拳や書道や餃子づくり、工作など、さまざまな体験ができてよかった。太極拳や書道の先生の中国語は私にとっては難しく、あまり聞き取ることができなかったが、**身体を動かしたりすることでリフレッシュ**になったし、学生同士の仲も深まったと思う。

\*太極拳は素人なりに楽しめるレベルだが本格的に指導してくれていたのが、かなり満足している。書道は個人的に苦手なのであまり楽しめなかった。しかし、墨絵(?)のようなものは楽しかった。同じ字を様々な字体で書いていくのもおもしろかった。

\*太極拳など、奈良の大学生生活の中では体験できないことが体験でき満足している。

\*実際に体験することによって、ただ滞在しているだけではわからない**中国の伝統文化を肌で感じる**ことができた。

\*まず、全て中国語で授業が行うことが何よりの勉強になりました。先生方が仰っている全てを完全に理解することは難しかったですが、何となくでも言わんとしていることは理解できたことがとても嬉しかったです。中国語の聞き取りだけでなく、身振り手振りや表情などから内容を汲み取る能力が身につきました。



書道体験の様子

\*文化体験を通してわからないことを聞き合ったり作品を見せ合ったりしたことで、他大学のクラスメイトとの仲が深まったかなと思います。授業ではクラスメイト同士で話さない分、文化体験では先生も含めて雑談ができ打ち解け合うことができました。

## 南京大学の学生、他大学の学生、または現地の方との交流はどうでしたか？

\*研修では、南京大学の学生と交流できます。

\*週に一度の現地の学生との交流会で、南京の観光地に連れていってもらったり、中国式のカラオケに行きました。カラオケでは、中国の歌を歌ったり南京大学の皆さんが日本語の歌を歌ったりと、盛り上がりました。また印象的だったのは、南京大学の日本語学科の皆さんは、とても日本語が上手で、日本語学科以外の学生も英語が上手く、**言語レベルが高い**と感じたことです。

\*中国語とは直接関係ないが、南京大学の学生と交流し、彼らががんばっている姿をみて、**この恵まれた環境でもっと自分も頑張ろうと思った**。

\*勉強熱心な他大学の学生と知り合えたことは非常にいいことだった。帰国後も連絡をとって、交流している。現地の店で注文するときも、何回も通っていると覚えていてくれ嬉しかった。聞き取れていない時など、笑われて最初は哀しかったが、徐々にそれも楽しめるようになった。(最後まで全てを聞き取ることはできなかった)

\*他大学の学生と一ヶ月間中国で過ごす中で、苦しい時は助けあい、励まし合い、とても楽しい時間を共有できました。**かけがえのない仲間となりました**。



\* 南京の人はお店の人も中国語で話さないと会話ができず、最初のご飯を食べるにも一苦労だった。が、南京の人は優しく、駅の横のちまきやさんは私達が商品名が分からずに困っていると、親切に対応してくれた。日本人は珍しいらしく、どこでも韓国人かと聞かれた。日本人だからと言って冷たくされたりはしなかった。

\* 一か月一緒に過ごしたことで、遠くの他大生と食事に行ったり観光に行ったりと濃い思い出を共有することができた。現地の学生とも帰国後もSNSを通じて会話をしたり**お互いの言語について教えあったりして、とても充実した関係を築くことができた。**



## 中国での生活において、発見したこと、驚いたこと、感じたことは何ですか？

\* 中国での生活において身に染みたことは、**自分のあたりまえはあたりまえじゃないときが必ずある**ということである。たとえば、車のクラクションをすぐ鳴らすことや、道路上に屋台があることや、食べ物に蠅がたかっているのに気にしないこと、残さず食べるという認識はあまりないこと、レジ袋はふつうもらえないことなどである。店員さんが食べながら、音楽聞きながら仕事をするということにも驚いた。子供が騒いでも周囲がうるさいので周りの大人は神経質になることもなく、レストランでその店の子供がテーブルで遊んでいるなど、中国の文化は日本に比べて寛容だと思った。

\* 中国人は周りを気にしない性格の人が多く思っていたが、そのような部分もある一方で周りの空気を読んで生活しているということが分かった。円卓では人が料理を取るタイミングを掴んだり、道路では車やバイク、人がお互いに上手くすれちがったりと、周りと混ざり合って生活しているように見えた。晩御飯を食べたり買い物をするときに感じたのが、外国人に対して興味があることを表に出す人が多いということである。何に対しても素直に反応しているのか、話しかけてくる人が思ったより多くて驚いた。



南京大学の学食

\* 中国で一ヶ月ほど生活して、まず電子マネーの発達に驚いた。同級生達がWeChatのバーコードを使って支払い、割り勘も手軽にしていたのを見てうらやましいと感じた。また電動バイクの多さ・人びとの信号の守らなさにも驚いた。バイクにひかれそうになったこともあり、最初は道を渡るにしても一苦労であった。地下鉄や高鉄のような公共の場所でも、イヤホンをつけずに音楽を聴いたり・電話をかけたりにして、**町が日本に比べて賑やかな雰囲気**を醸し出していて**中国人は自由だ**とも感じた。町の中にゴミ箱がたくさんある事も意外で、日本はゴミ箱が少ないので便利だと思った。食事のマナーにても日本と異なる事がたくさんあった。お皿を持ち上げずに食べることは知っていたが、お箸を縦に置くこと・メニューは目上の方がパッと頼むことは、南京に行ってから学生の人に教わった。日本人だけでお店に行くと、定員さんに早く注文しろと注意されることがあった。



## 研修を経て、あなた自身にはどんな能力が身についたと感じますか？

\* 寛容になる力や、能動的になる力が身についたのではないかと感じる。交通状況の違いや、人の多さなど、日本ではいらいらしてしまうことも、中国では当たり前のことなので、**文化の違いを受け入れる力が身についた**と思う。中国では自分から働きかけなければならぬ状況も多くあり、そのため積極的に行動する力が身についたのではないかと感じる。

\* 少しだが失敗を恐れなくなったと感じる。中国で大きな失敗をしてとても恥ずかしかったが、一ヶ月の研修の中でその失敗のおかげで確かに成長したと実感がわいた。日本で失敗を恐れてチャレンジしない自分が恥ずかしいように感じた。中国語の成績が決して良かったわけではない私が、今回の研修に参加するには勇気がいったがチャレンジして良かったと思う。

\* 全く知らない人との交流、外国の人との交流、言葉が通じない人との交流を通して、**伝えることを諦めないことが大切だ**と分かった。まだ十分に実践することはできていないけれど、分からないからほうっておくのではなく、聞いて理解しようとする積極的な気持ちを持つ癖を身につけようと思う。



修了証を手に南京大学の先生と

# ベトナム国家大学ハノイ人文社会科大学とのプログラムを開催！

11月8日(水)～11月21日(火)の期間、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科大学の学生6名を対象に本学の学生と交流を深めるとともに、日本語授業およびインタビュー調査を通して自然な日本語を身につけるプログラムを開催しました。

プログラム期間中、参加学生は日本語の講義に加え、日本文化体験として箏曲演奏(本学箏曲部「飛鳥会」の協力による)や茶道、書道などの日本文化体験を行いました。その他、本学の学生がボランティアとしてプログラムに参加し、国際交流を行うなど充実したプログラムとなりました。下記、ベトナムの学生からの感想を掲載します。



茶道体験にて



琴を学ぶ様子



ならまちでの様子

- プログラムは楽しかったです。プレゼンテーションでは、学生が自由に自分自身を表現できる日本語を勉強できて、嬉しかったです。
- ベトナムでの教え方は、日本の教え方と違うので、難しかったです。でも日本人の先生と日本人の友達のおかげで、だんだんと慣れました。
- 日本の文化体験が出来ました。一番楽しかったのは、琴という楽器を弾くことができたことです。
- このプログラムのおかげで日本人の友達ができ、多くのことを学びました。
- 奈良は景色がとても綺麗です。奈良に住みたいです。一番良かったことは、東大寺と伏見へ行ったことです。
- 日本で過ごす時間は、とても綺麗で、平和的でした。先生と友達はとても親切です。本当にありがとうございます。

## 卒業修了留学生メールマガジン(Narakara MM)がスタート！

奈良女子大学国際交流センターでは、2017年11月から、卒業修了留学生向けのメールマガジンを配信しています。このメールマガジンでは、これまで奈良女子大学で勉強した留学生の方々が、留学期間を終えた後も親睦と情報共有を続けられるように、同窓会情報や卒業修了後の活躍の様子について伝えていきます。また本学との関係を維持・発展していくために、定期的に本学の留学生関連のイベントについて発信し、元留学生のフォローアップの機会を提供していきます。奈良女子大学への留学経験がある皆さん、ぜひ登録をお願いいたします。学部・大学院・非正規や、国費・私費の違いは問いません。世界各地、各方面で活躍されている元留学生同士での交流と、奈良女子大学との連携を深めてみませんか？



## センター及び国際課の活動

- |         |                            |
|---------|----------------------------|
| 10/4    | 新入学留学生オリエンテーション            |
| 10/7    | TOEFL対策講座                  |
| 10/11   | Welcome Party(交換留学生&日研生対象) |
| 10/24   | 研修報告会(ベトナム&南京)             |
| 10/28   | TOEFL対策講座                  |
| 11/8    | 留学生のための茶道教室                |
| 11/8～21 | ベトナム国家大学人文社会科大学とのプログラム     |
| 11/10   | JSAF留学説明会                  |
| 11/20   | CIEE国際ボランティア説明会            |
| 11/24   | グローバル女性人材養成プログラム(NZ)第3回説明会 |
| 12/1    | グローバル女性人材養成プログラム(NZ)第4回説明会 |
| 12/8    | グローバル女性人材養成プログラム(NZ)第5回説明会 |
| 12/15   | グローバル女性人材養成プログラム(NZ)第6回説明会 |
| 12/14   | 卒業修了中国人留学生×在校中国人留学生懇話会     |

登録はこちら↓

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/int/ja/graduates/narakara/index.html>

## センター来訪者

- 2017/12/19 Fidel R. Nemenzo, D.Sc. 氏  
(Vice Chancellor for Research and Development  
University of the Philippines Diliman)

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.49 2017年12月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: [iec@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:iec@cc.nara-wu.ac.jp)